



がんになっても暮らしやすい社会をめざして 働く世代と子供のサポート

プログラムは裏面をご覧ください▶

第1部 親ががんになったときの子供のサポート

第2部 がんと自立・就労

【座長】小澤 美和(聖路加国際病院 小児科 医長)
茶園 美香(慶応義塾大学 看護医療学部 准教授)

【座長】山内 英子(聖路加国際病院 乳腺外科 部長)
石田 也寸志(愛媛県立中央病院 小児医療センター センター長)

日時 2013年12月21日(土)
10:00~17:00

会場 学校法人 聖路加看護学園 講堂
(アリス・セント・ジョンメモリアルホール)
東京都中央区明石町10-1

参加費 無料 <定員300名>
※事前申込なしの自由参加です。
※お子様の参加は可能です。
※託児所はありません。

お問い合わせ
シンポジウム事務局 listnerkenkyu@luke.or.jp
E-mailにてお送り下さい。担当者よりご返信致します。

今や、日本人の2人に1人が、がん経験者の時代とされているほど罹患率が上昇し、がんと言う病は私たちの社会に大きな影響を及ぼしています。そして、医療の進歩により、がんの治療を終えてからの時間が長く持てるようになったことも、生活に影響を与える大きな要因と言えるでしょう。そんな中で、私たち研究班はがんになっても暮らしやすい社会を目指して、がん経験者の家族や就労に関するサポートを皆さんと考えていきたいと思っています。がんと診断された親を持つ子供へのサポート、小児がん経験者を含む働く世代での自立・就労支援、今回はこの2点に焦点を当てました。

主催：厚生労働科学研究費補助金 がん臨床研究事業
小澤班(聖路加国際病院 小澤 美和)
山内班(聖路加国際病院 山内 英子)
共催：公益財団法人日本対がん協会

プログラム

【第1部】

親ががんになったときの 子供のサポート

10:00～12:00

【座長】 小澤 美和

聖路加国際病院 小児科 医長

茶園 美香

慶応義塾大学 看護医療学部 准教授

親ががんになった子どもの心

小澤 美和(聖路加国際病院 小児科 医長)

拠点病院として地域医療・教育機関との連携

井上 実穂(独立行政法人国立病院機構四国がんセンター 臨床心理士)

がん患者の子どものサポートプログラム

小林 真理子(放送大学 臨床心理学プログラム 准教授)

親が終末期を迎えた時 ～医療者の苦悩、子供の苦悩～

大谷 弘行(独立行政法人国立病院機構九州がんセンター 緩和治療科 医師)

パネルディスカッション(30分)

● 昼食は周辺のレストラン等をご利用いただき、各自でお取りください。(会場内での飲食はご遠慮頂いております)

【第2部】

がんと自立・就労

13:00～17:00

【座長】 山内 英子

聖路加国際病院 乳腺外科 部長

石田 也寸志

愛媛県立中央病院 小児医療センター
センター長

小児がん経験者の自立・就労実態調査と支援システムの構築、情報発信

石田 也寸志(愛媛県立中央病院 小児医療センター センター長)

自立訓練と就労実践を踏まえたパイロット事業の経験から言えること

林 三枝(NPO法人ハートリンクワーキング・プロジェクト 副理事長)

小児がん経験者が持つ課題と公的支援の狭間を考える

西田 知佳子(還の会 理事) 近藤 博子(がんの子供を守る会 理事)

質疑応答(15分)

休憩(10分)

成人がん経験者の就労問題と支援システムの構築

山内 英子(聖路加国際病院 乳腺外科 部長)

働く世代のがん経験者の就労問題の実態と今までの活動

桜井 なおみ(キャンサーソリューションズ株式会社)

成人がん経験者の就労に対する病院モデル

保坂 隆(聖路加国際病院 精神腫瘍科 医長)

成人がん経験者の就労に影響する身体的要因の解明と対策

小松 浩子(慶応義塾大学 看護医療学部 教授)

がん患者就労支援における社会保険労務士の役割

平松 利麻(トラヴェシア 代表)

質疑応答(20分)

休憩(10分)

パネルディスカッション(40分)

アクセスマップ

● 電車でお越しの場合

日比谷線 築地駅 3番または4番出口を出て、
デニーズと東京トヨペットの間を直進
(徒歩3分)

有楽町線 新富町駅 6番出口を出て、
一つ目の道を右折して直進
(徒歩5分)

● バスでお越しの場合

バス 東15番 一 東京駅八重州口
深川車庫行 聖路加病院前下車

